(社)日本原子力学会　標準委員会　原子燃料サイクル専門部会
第７回　廃棄体放射能評価分科会（F10SC）議事録

１．日時　　2006年4月14日（金）　13時30分～15時40分

２．場所　　(社)日本原子力学会 会議室

３．出席者　（順不同，敬称略）
（出席委員）川上（主査），傳田（幹事），池戸，坂下，竹下，西谷，
古谷，本山，森本，山崎（10名）
（欠席委員）松村（副主査），市川，樋口（3名）
（常時参加者）尾崎，吉澤（2名）
（発言希望者）阿部（1名）
（傍聴者）北村，榊原，高井（3名）
（事務局）厚

４．配布資料
F10SC7-1　第６回廃棄体放射能評価分科会議事録（案）
F10SC7-2　「放射性廃棄物の放射能決定方法－原子力発電所から発生する浅地中ピット処分対象廃棄物の放射能決定方法に関する基本手順：2006（案)」に対するコメントについて（改定１）
F10SC7-3　放射性廃棄物の放射能濃度決定方法 －原子力発電所から発生する浅地中ピット処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法に関する基本手順：2006（案）（改定２）
F10SC7-4　F10SC7-2 抜粋①（SF 等継続に関する部分以外の記載について）
F10SC7-5　F10SC7-2 抜粋②（SF 等継続に関する部分の記載について）
F10SC7-6　F10SC7-2 抜粋③（原子炉構成材料関連部分の記載について）
F10SC7-7　旧標準案別紙－１の改定案（ d）検出困難な核種への措置）
F10SC7-8　旧標準案別紙－２の改定案（Ⅷ. 原子炉構成材料の組成成分，接水面積及び溶出速度について）

５．議事

（１）出席委員の確認

事務局から10名の委員の出席があり，決議に必要な委員数（9名以上）を満足している旨の報告があった。また，阿部 昌義 氏（標準担当委員／(財)放射線計測協会）より発言希望者として，北村 高一 氏，榊原 哲朗 氏（日本原子力研究開発機構）及び高井 正和 氏（石川島播磨重工業（株））より傍聴者としての届出が事務局を通じて主査に出されており，主査がこれを了承している旨，紹介された。

（２）前回議事録の確認

前回議事録は，承認された。(F10SC7-1)

（３）資料の全体構成について

F10SC7-2～F10SC7-8の各資料の位置付けについて，以下の説明があった。

・F10SC7-2 は今回の分科会までに寄せられた全コメントの集約結果

・F10SC7-3 は第 6 回分科会において対応方針が確認されたコメントについての改訂を行った標準案（ただし F10SC6-5 にて別紙-1 及び別紙-2 とした部分については，別紙なる様式が一般的ではないことから，第 6 回分科会では確認されていなかったが構成を変更して解説の一部とした）

・F10SC7-4～F10SC7-6 は，F10SC7-2 の内容のうち，今回の分科会でコメント内容及びコメント回答案の確認を行う必要のある箇所の抜粋

・F10SC7-7 及び F10SC7-8 は，第 6 回分科会資料（F10SC6-5）にて別紙扱いとした部分について，これらを解説に含むよう変更し，またその他のコメントも反映した記載案（F10SC7-5 及び F10SC7-6 中に記載すると分かりにくいことから別資料とした）

（４）SF 等継続に関する部分以外の記載について

F10SC7-4に沿って，標準案のうち，SFの継続的な使用に関する部分以外に対して，第6回分科会以降に各委員から追加で指摘のあったコメント及びコメント回答案についての説明があった。

本件について，今回の分科会にて新たに発せられたコメント等は次のとおり。

・P. 23(*9)については，文意には国際標準案との対比といった意味合いなども含まれているため，「日本では」の記述は削除せず，そのまま残すこととした。

・解説Ⅳ. の全体（P. 19～P. 23）にわたり，「プラント特性」との表現が使用されているが，当該表現については，SF の変動条件を意味することがより分かりやすくなるよう，「プラントの状況」に見直すこととなった（なお，より適切な表現があった場合は，適宜見直すこととなった）

（５）SF 等継続に関する部分の記載について

F10SC7-5及びF10SC7-7に沿って，標準案のうち，SFの継続的な使用に関する部分に対して，各委員から指摘のあったコメント及びコメント回答案についての説明があった。

本件について，今回の分科会にて新たに発せられたコメント等は次のとおり。

- F10SC7-5 の P.42(*5)のスケーリングファクタの継続性の確認として，幾何平均とする場合でも算術平均の 10 倍で判断する件について，妥当性をもう少し明確にした方が良いという意見もあったため，可能であれば背景を調べ，よりよい表現があれば適宜見直すこととなった。
- F10SC7-5 の P.45 の解説表 10 中の溶出率を溶出速度と変更する件について,溶出速度は時間の単位を持っているので，本標準案のような場合には，溶出率の方がより適切かも知れないというコメントが出たため，他の個所の扱いも含めて表現方法を再度検討することとなった。
- F10SC7-5 の P.47 の解説図６等に示される PWR プラントの表現方法について，どのように表現すると適切かという議論が行われ，ここでは，材料交換によってスケーリングファクタに大きな変動がなかったことを示すことが重要であることから，現状の表現でも良いが，よりよい表現があれば適宜見直すこととした。
- F10SC7-7 の ^{129}I の計算結果を比較する分析方法として，放射化分析を考慮すると，従来の分析法と比較してどのようになるのかというコメントがあり，分析条件によって変わるが，およそ 1 桁程度分析精度が良くなると思うとの回答があった。ただし，放射化分析はあまり一般的な分析法ではないので必ずしも記載を変更する必要はないのではとの意見もあったため，現状の表現でも良いが，よりよい表現があれば適宜見直すこととなった。

（６）原子炉構成材料関連部分の記載について

F10SC7-6及びF10SC7-8に沿って，標準案のうち，SFの継続的な使用の中で引用されている原子炉構成材料関連部分に対して，各委員から指摘のあったコメント及びコメント回答案についての説明があった。

本件について，今回の分科会にて新たに発せられたコメント等は特になかった。

（７）その他，学会標準案へのコメント等について

傳田幹事より，四国電力伊方発電所における状況の報告があり，標準策定上，必要があれば適宜検討することとなった。本分科会で提示した資料について，コメント等がある場合は，2006年4月28日（金）までに傳田幹事宛てに連絡することとなった。

６．その他

次回分科会を2006年7月10日（月）13:30～に実施予定。

以　上